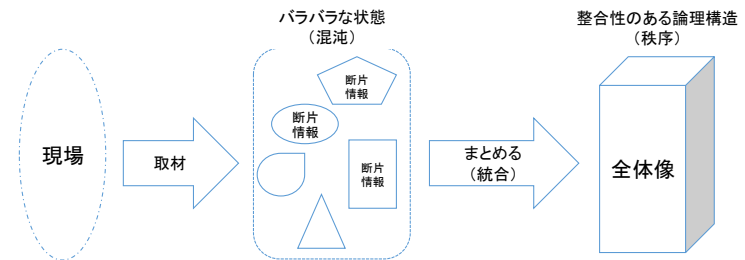


臨床で活かす看護・介護研究 質的統合法(KJ法)

名桜大学人間健康学部看護学科
松下 聖子

質的統合法とは

- バラバラな断片的なデータから「仮構築」のプロセスを経て、「整合性のある論理構造」を見出す作業なのである。
- 混沌とした質的情報を統合して秩序を見出す仕組みが質的統合法の手続きの姿であり、名称の由来である。



質的統合の手順

取材(インタビュー等)



逐語録
単位化



ステップ1:ラベルづくり

ステップ2:ラベル広げ

ステップ3:ラベル集め

ステップ4:表札づくり

ステップ5:見取り図の作成

ステップ6:本図解の作成

ステップ7:叙述化(文章化・口頭発表)

グループ編成(繰り返し)

ステップ1:ラベルづくり



ステップ2:ラベル広げ

・ラベル広げとは、ラベルづくりを終えたラベルを目の前に並べて一覧できるようにする作業である。

①ラベルを重ね、よく切って順不同にする。

↳前後関係やストーリーの枠にとらわれずにラベルを
読めるよう、並べる前に順番をバラバラにしておく

②机の上にラベルを一気に並べる

↳順不同にして、重ねず、読みやすいように並べる



注意！！

★ラベルの分類は行わない！

★内容は読まない！

ステップ3:ラベル集め

・ラベル集めとは、目の前に並べられたラベルを読みながら、ラベルを寄せ集める作業である。分類しこにならないように気を付ける。

①並べたラベルを1枚ずつ読み進め、3~4周する。

・ラベルに書いてあること以上の思考ははさまない。
・記述されてるとおり、一字一句字義通りに読む。

②ラベルが訴える「志」が似たものどうしを寄せ集める

・似たラベルどうしを集めてグループにする。
・グループになったラベルは重ねない。
・グループとして集める枚数は2~3枚を目安とする。



ステップ3:ラベル集め

- ③寄せ集めたグループのラベルは右左どちらかに寄せる
 - ・できたグループから順に脇に寄せておく。
 - ・ラベルどうしの関係性を探るような配置はしない
- ④似たものどうしがなくなった時点で終了する
 - ・「もうこれ以上似たものどうしがいない」と限界になったところで終了する。
 - ・所属しないラベルが出てきても構わない。このどこにも属さないラベルを「1匹狼」という。
 - 1匹狼のラベルは、全体の1/2～1/3は許容範囲である。

ラベル集めで大切なこと

- ・理屈で集めないこと
 - ・因果関係にもとづく集め方
 - ・説明をうまくつけるための物語的な集め方
 - ・あらかじめ枠組みを用意した分類的な集め方



- 類似性: 何となく似ている
- 親近性: 訴える内容が近い
- *ラベルを読み上げる際余計な思考をはさまないこと

ステップ4: 表札づくり

• 表札づくりとは、ラベル集めによって集まったグループごとに複数のラベルの内容をまとめ、一文にする作業を言う。

①集まったラベルのセットの全体肝を自問自答する

・「なぜ集まったのか？集まった感じはどんな感じなのか？」と自ら問い、「こうだ」と答える

②つかんだ全体感を一文で表現し、新しいラベルに赤い筆記具で記す

・表札の文字数は、元のラベルとほぼ同じくらいの文字数を目安とする

ステップ4: 表札づくり

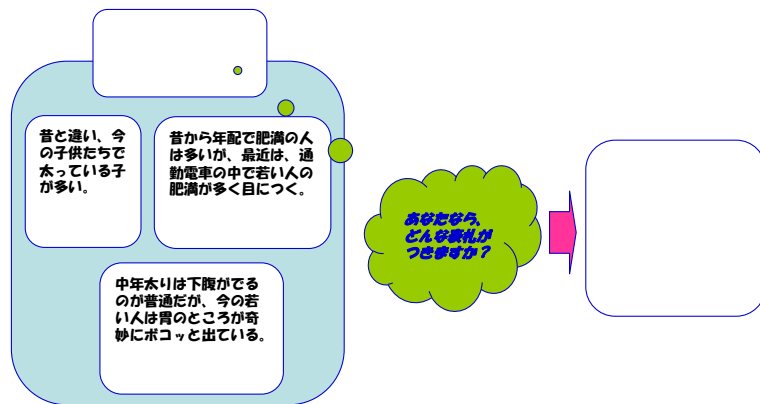
③ラベルを重ねたうえに表札のラベルを載せ、クリップで束ねる

④「一匹狼」として残っているラベルの右下隅に赤い筆記具で点をつける

重要！！

表札に作業者の意見を書くわけではないということ。あくまでも集まったグループを代弁するのが表札づくりである。

表札づくり



グループ編成

- ラベル広げ→ラベル集め→表札づくりは、合わせてグループ編成と呼んでいる。
- 最初のラベルづくりで得られた元ラベルは、グループ編成を繰り返すことで、最終的には数個のグループにまで統合される。
- グループ編成は段階が進むことに、1段目、2段目、3段目、・・・N段目と呼ぶ。
- 一貫して元ラベルとそこからつくられる表札のみを使うので段階が進むほどラベルの数は集約されて少なくなっていく。
- グループの総数が5～7個になったら作業を中止する。

グループ編成の注意事項

- 抽象度を上げつつ具体性を加味しつつ表札をつくる。
- 段階の違いがわかるように表札をつくる。

表札の文字色・束ねる道具・「一匹狼」の印の段階別規則		
	表札の文字色・束ねる道具	「一匹狼」の印
元ラベル	元ラベル 黒	
1 段目	表札1段目 赤 クリップ	右下隅に赤点
2 段目	表札2段目 青 輪ゴム	右下隅に青点
3 段目	表札3段目 緑 輪ゴム	右下隅に緑点
4 段目	表札4段目 赤+左上を赤で塗る 輪ゴム	右下隅に赤斜線
5 段目	表札5段目 青+左上を青で塗る 輪ゴム	右下隅に青斜線
6 段目	表札6段目 緑+左上を緑で塗る 輪ゴム	右下隅に緑斜線

ステップ5: 見取り図の作成(空間配置)

- グループ編成が終わって5~7個のグループになったら、それらの関係を構造化した図解を作成する。図解を作成する作業のうち、関係を探って決めるまでの作業を「空間配置」実際に紙を使って図解を完成させる作業を「図解化」という。
- 空間配置では、関係記号と使ってラベルどうしの関係性を視覚的に構造化する。関係記号に添え言葉を付け加えて、関係性をより明確にする。



ステップ5:見取り図の作成

- ①集約されたラベルの束の1枚目に書かれた内容を新しいラベルに黒のボールペンで転記する。
- ②転記したラベルを目の前に読みやすいように並べ、相互関係を探る。
- ③関係がありそうなラベルの配置を決め、間にメモを置く。
- ④メモ用紙に関係記号と添え言葉を記入する。
- ⑤ラベルのそばにメモ用紙を置き、シンボルマークを記入する。

ステップ5:見取り図の作成

- ⑥A4用紙に図解を作成する。
 - ・空間配置が終わったら、A4サイズの内紙を使って図解化する
- ⑦研究テーマと注記を記入する。
 - ・研究テーマは見取り図全体の見出しとなる。
 - ・注記は、作成日・作成場所・情報源・作成者の4項目である 情報源とはデータの出所である
- ⑧結論文を記入する。
 - ・シンボルマークに関係記号の添え言葉を加えてストーリー化し浮かび上がった全体像を説明する
 - ・400字程度が目安となる

シンボルマーク

- シンボルマークとは各ラベルの内容のエッセンスを凝縮した表現である。5～10文字程度で、ラベルの内容のキーワードを抽出したり、新たな象徴的な表現を用いたりする。
- シンボルマークは、「事柄:エッセンス」の二重構造で表現する。

ex「看護師の役割:患者のところに寄り添う生活支援」
「患者の思い:自分より残される家族が心配」

ステップ6:本図解の作成

- 見取り図が作成できたら、それを基本設計図に元ラベルまで展開し、本図解を作成する。
- ①見取り図を横に置き、隣に模造紙を広げる
 - ②ラベルの束を使って見取り図の配置を模造紙上に再現する
 - ③ラベルの中味を展開する(別紙資料2)
 - ④ラベルの所属関係を鉛筆で輪取りする
 - ⑤バランスの確認

ステップ6: 本図解の作成

⑥元ラベルと1段目の表札を貼る

⑦1段目に対応する輪取りをつくる

- ・サインペンを使って下書きした和取りをなぞる
- ・段階が上がるにつれペンを太くすると見やすくなる
- ・輪取りのできたブロックを「島」と呼ぶ

⑧2段目以降の表札の内容を転記し、輪取りをつくる

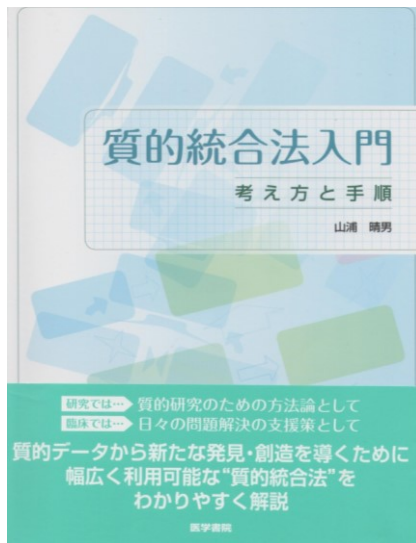
- ・2段目(青ラベル)以降の表札は、ラベルを張らずに直接書き込む 段階ごとに文字サイズを大きくしていくと図解全体が見やすくなる
- ・「一匹狼」は原則としてラベルを貼る

ステップ6: 本図解の作成

⑨関係記号・添え言葉・シンボルマークを記入する

⑩研究テーマと注記を記入する

⑪結論文を記入する



参考文献

山浦晴男:質的統合法入門
考え方と手順 医学書院

山浦晴男:質的研究とは—科学における質的研究の位置づけと意義— 日本母性衛生学会 第52巻1号 2011.

山浦晴男:質的研究のノウハウ—質的研究をどう進めるか— 日本母性衛生学会 第52巻2号 2011.

山浦晴男:質的研究の本義と落とし穴—いい加減な研究にならないための留意点— 日本母性衛生学会 第52巻3号 2012.